

脱プラスチック肥料で環境にやさしい米づくり！  
飛騨市・JAひだ・サンアグロが、試験結果報告会を実施。



試験結果の報告を行った、都竹 飛騨市長（右から2番目）、思田 JAひだ組合長（右から3番目）、協力農業者代表 田中様（一番左）、サンアグロ社長 高橋（一番右）。

2025(令和7)年11月26日、岐阜県飛騨市役所にて「脱プラスチック肥料で環境にやさしい米づくり！ 試験結果報告会」が行われました。

既報の通り、飛騨市・JAひだ・サンアグロ(株)の3者は、2025年3月に「[脱プラスチック肥料の開発・普及に向けた連携協定](#)」を締結し、環境負荷軽減の取り組みを進めてきました。今回行われたのは、その協定に基づく試験結果の報告会です。

実証試験は、当社サンアグロの硫黄被覆肥料（SCU）を使い、もち米「たかやまもち」では5軒、「コシヒカリ」では3軒の生産者様の協力を得て実施されました。その結果、収穫量は飛騨の平均値である10アールあたり「たかやまもち」420KG、「コシヒカリ」480KGを確保しつつ、玄米の見た目も良く、味の基準となる「食味値」において高い数値を示す結果となりました。

この結果を受け当社サンアグロでは、同肥料を新製品『清流の至豊』として製品化し販売開始。

2025(令和8)年度にJAひだの組合員に配布される「営農の手引き」に掲載されることとなりました。

当社高橋社長は、「今回、圃場試験を通じて、硫黄被覆肥料『清流の至豊』を評価いただき、商品化まで進めることができました。また「営農の手引き」の栽培層にも掲載いただきました。これにより「脱プラスチック肥料で環境にやさしい米づくり」の取り組みが組合員の皆様へ一層周知されていくものと思います。

これも関係機関各位のご尽力をいただいた結果であり、御礼とともに、引き続きメーカーとして製品の安定供給を含め責任を果たすべく、さらに取り組みを強化していきたいと考えています」と感謝の意と意気込みを述べました。

飛騨市では、他の飛騨地域2市1村とも連携し、脱プラスチック肥料の普及を目指すとのこと。当社サンアグロとしても、今回のような取り組みを展開することにより、2022年に全国農業協同組合連合・全T工業会・肥料アンモニア協会が発表したロードマップ「2030年にはプラスチックを使用した被覆肥料に頼らない農業に」に基づき、「硫黄被覆肥料」製品の開発・普及に取り組んでいきます。



硫黄被覆肥料の新製品  
『清流の至豊』

[リーフレットはこちらから](#)

※『清流の至豊』は、農業協同組合（JA）販売の製品です。

北陸地域での水稻栽培を想定した設計となっていますので、他の地域でご使用の際は最寄りのJAに お問い合わせください。

当報告会は新聞にも掲載されました。画像をクリックすると拡大してご覧いただけます



岐阜新聞 2025年12月5日付  
掲載記事



日本農業新聞 2025年12月23日付  
掲載記事

硫黄被覆肥料のしくみや  
特徴を紹介しています

[PICKUP 硫黄被覆肥料](#)

当社のマイクロプラスチック問題への  
取り組みを紹介しています

[PICKUP 海洋プラスチック問題](#)

本件に関するお問い合わせは、下記リンク先よりご連絡ください。

[お問い合わせ](#)